

2025(令和 7)年度 中学校入試

結果分析と学習のアドバイス



雲雀丘学園中学校

目 次

■2025(令和7)年度 中学校入試

A日程午前 算 数 ・ 国 語 ・ 理 科 ・ 社 会

A日程午後 算 数 ・ 国 語

B日程 算 数 ・ 国 語 ・ 理 科 ・ 英 語

■2025(令和7)年度 中学校入試

A 日程午前

算 数

■全体講評

出題形式は例年と同様である。大問 1 は例年通り正答率が高く、全問正解してほしい問題である。例年と比較し、大問 2 の正答率が低かったため、全体的にも正答率が下がった。そのため、例年より難易度が高く感じる受験生が多かったと思われる。また、大問 4 は(1)から正答率が低かったため、大問 3 や大問 5 が合否の分かれる問題であったと思われる。

■出題主旨

1. 基本的な計算力を問う問題。
2. 小問集合。様々な単元から出題し、様々な内容の基礎がしっかりしているかを問う問題。
3. 動画を見る速さを題材に割合を考える問題。
4. 立体をイメージし、正確に計算できるかを問う問題。(3)で規則性を考えてほしい。
5. 平面図形の問題。(1)(2)は基本的な内容。

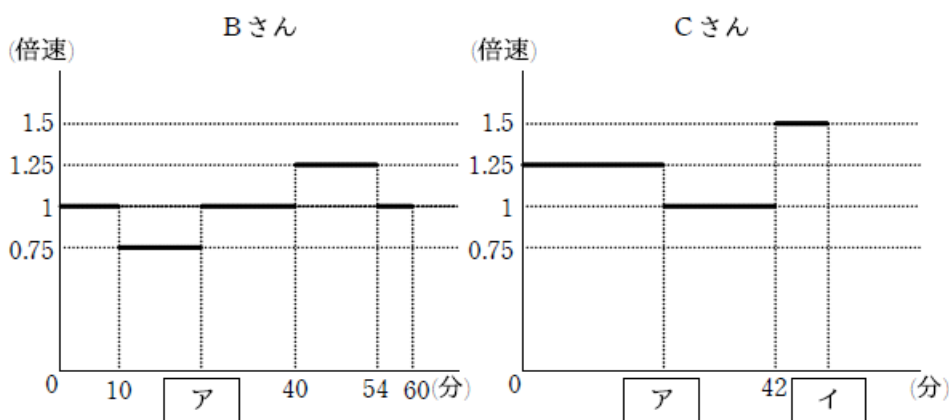
■対策への助言

算数の学習では、知識・思考力と正確な計算力をつけることが必要です。大問 1 は計算問題、大問 2 は小問集合、大問 3 以降は思考力を要する問題という構成は変わっていません。計算問題は他の大問に比べ正答率が高く、確実に正解した上で他の問題に取り組みましょう。様々な分野から出題されますので、日頃から「なぜそうなるのか」を理解した上で、確実な基礎力を身につけておきましょう。また、典型的な問題では答えを出すだけではなく、学習の中で考え方やなぜそうなるかを自分で説明できるようにしましょう。そうすることで、初めて見たような問題も考えることができるようになります。

■問題分析

3. 動画を見る速さを変えることを、ある動画を○倍速で見るといいます。例えば、すべて通常の速さで見ると60分かかる動画を2倍速で見ると、30分かかります。

- (1) ある動画をすべて0.75倍速で見のにかかる時間は、同じ動画をすべて1.25倍速で見のにかかる時間の何倍ですか。
- (2) Aさんは、すべて通常の速さで見ると25分かかる動画を見ました。すべて通常の速さで見の予定でしたが、と中わかりにくいところがあり、その部分は0.75倍速で見ました。このとき、Aさんがこの動画をすべて見るのにかかった時間は27分でした。0.75倍速で見たのは何分間ですか。
- (3) BさんとCさんがすべて通常の速さで見ると60分かかる動画をそれぞれ見ました。下のグラフは、見始めた時間を0分として、見終わるまでの速さを記録したグラフです。□に入る数を答えなさい。ただし、アには同じ数が入ります。



考え方と解き方

速さと時間の関係をイメージしやすいように、具体的に考えましょう。

- (1) 「0.75倍速 ($\frac{3}{4}$ 倍速) で動画を見ると3分の動画を4分で見るができる。

1.25倍速 ($\frac{5}{4}$ 倍速) で動画を見ると5分の動画を4分で見るができる。」

例えば、15分の動画を見るのにかかる時間は、0.75倍速で20分かかる。

一方、同じ動画を見るのにかかる時間は、1.25倍速で12分かかる。

従って、 $\frac{20}{12} = \frac{5}{3}$ 倍となる。

- (2)(3) 「0.75倍速で見ると、通常の動画3分ごとに動画を見る時間が1分長くなる。1.25倍速で見ると、通常の動画5分ごとに動画を見る時間が1分短くなる。」

このことが理解できると、どちらも解きやすくなります。

■2025(令和7)年度 中学校入試

A 日程午前

国 語

■全体講評

説明的文章、文学的文章、漢字の書き取り問題の計3題の出題である。説明的文章が約3500字と文字数が多いので、内容をすばやく正確に読みとる力が求められる。記述問題は説明的文章で60字を一題、文学的文章で30字を一題、またノートをまとめたものに空欄補充をする形での記述問題も出題した。それに加えて、会話文の形式で人物の心情を本文の表現から読み取る問題も出題した。漢字の書き取りは全10問、その中には四字熟語の一部を書き取る問題も出題している。

■出題主旨

大問1【説明的文章】真田純子『風景をつくるごはん 都市と農村の真に幸せな関係とは』より出題

都会から徳島への移住経験をもつ筆者が書いた文章である。景観研究者である筆者は徳島で見た「農村風景」を美しくないと感じてしまう。その風景にはハウス栽培やリレー栽培といった、都会の人が求める野菜を作らざるをえない農家の問題が表れている。そして旬の季節を無視した、いつでも食べたいものが食べられる現代は本当に豊かなのかという疑問を投げかける。小学生にも身近な野菜という話題や筆者の具体的体験が語られていて、文章を読み進めることはそう難しくはないが、そこから社会という視点から文章を理解できるかが読解の鍵となる。

大問2【文学的文章】坪田侑也『八秒で跳べ』より出題

高校でバレーボール部に所属する宮下景と、中学からの同級生である北村との関係を描いた場面である。二人の会話を中心として場面が進むので、それぞれの会話文から相手への心情を把握していく必要がある。特に読解の中心として、景の「北村はなぜ高校でもバレーを続けたのか」という疑問に対する北村の答え「自分がチームに参加している感じ」「バレーが楽しい」という言葉を読みとってほしい。そこには景自身のバレーに対する思いも感じとることができる。また、二人の心情は象徴的な表現でも随所に描かれており、その表現に関する問題も出題した。

大問3【漢字】

漢字の書き取り問題を10題出題した。様々な漢字を、文章を綴るなかで書くという経験をしておいてほしい。

■対策への助言

説明的文章では、文章冒頭の問題提起に対する筆者の考えを文章の流れに沿って読みとってほしい。その際には、指示語や段落構成など論理に関わる要素だけではなく、筆者の思いや感情を表す言葉にも注目してみると、「なぜこうした意見や結論になっているのか」がわかることもある。また、文章中に挙げられている具体例と筆者の主張との関係性にも注意を払ってほしい。

文学的文章では多くの場合、会話文や人物同士のやり取りを通して物語が進行する。その中で人物の心情について問う問題が多く出題される。ということは、その心情が何によってもたらされたのかを会話文や人物とのやり取りを通して読みとっていく必要がある。もちろん主人公や中心人物だけでなく、他の人物の会話文や行動描写にも気を配る必要があり、さらには情景描写や象徴表現にまで注目して読むことで理解はより深まる。

■問題分析（本文抜粋）

大問一 問十 「農産物は単なる『食品』ではなく『植物』である」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 農産物は本来、人間がつくるから育つものではなく、地球環境によって育まれるものであるということ。
- イ 農産物は本来、人間が育てる時期を決めるものではなく、特定の時期にしか育たないものであるということ。
- ウ 農産物は本来、人間が食べるためだけにつくるものではなく、自然のなかで生きているものであるということ。
- エ 農産物は本来、人間が食べるためだけのものではなく、人間と自然とを結びつけるものであるということ。

《解答・解説》

正答はウである。傍線部の文構造が「農産物はAではなくB」となっているので、A「食品」とB「植物」について、筆者の考えを読みとる。本文では「食品」は文字通り人間が食べるために栽培されるもの、さらには人間の食生活のため本来の旬の季節を無視した野菜であると読み取れる。それに対して「植物」は、傍線部直後の「食の“自然性”」、また具体例としての「長雨の後のオクラ」から、地球の自然環境のなかで人間の意図とは関係なく生きているものと読み取れる。以上のことから、選択肢ウが最も適当なものとなる。

大問二 問六 ——⑥「そりゃ意外でしょ」、⑦「そりゃあ景は覚えてないか」について、Hさんは考えを整理するためのノートをつくりました。(Ⅰ)・(Ⅱ)にあてはまることばを、それぞれ指定字数以内で答えなさい。 ※ノートはここでは省略

《解答例・解説》

(Ⅱ)の北村の心情について取り上げる。ノートでは「そりゃあ景は覚えてないか」という「そりゃあ」には「当然だ、あたりまえだ」という気持ちがこめられているとあり、そこから北村が考えていることを空欄補充のかたちで答える問いである。

まず「そりゃあ景は覚えてないか」が「中学の最後の試合に、俺が出たの覚えてない？」という北村のセリフに続くことばであることを読みとる。そして傍線部直前の景の心情「北村がコートにいたことは、…思い出せなかった」から解答を導き出すことができる。

解答例は「中学最後の試合で自分が試合に出ていた（ことを、景が覚えてないのは当然だ）」としているが、「…試合で得点につながるプレイをした」もさらに詳しい説明として、許容できる解答である。

■2025(令和7)年度 中学校入試

A 日程午前

理 科

■全体講評

例年通り各分野のバランスを考えて、生物、物理、化学、地学の4分野から均等配点で出題しました。難易度や問題数も各分野で偏ることがないようにしています。基本的な知識問題だけでなく、実験内容の理解とその結果の整理、与えられた文章・情報の正しい理解など、科学を扱ううえで必要とされる基礎力を問うことに重きをおいて作問しています。

各分野の正答率を比べると、物理分野において、図や表から読み取ったデータを活用して解く問題の得点率が低かったです。読み取ったデータがどのような意味を持つのか、それを他の現象にどのように活用されるのかを、日頃から理解しようと努めることが必要です。これは物理分野に限らず、理科全体に言えることです。普段から意識して学びましょう。

■出題趣旨・講評

問題 番号	項 目	設 問
1	様々な生き物の 特徴	教科書で目にする生き物の特徴を正しくとらえ、その特徴をもとに分類する力を問いました。それぞれの生き物は、生活している場所や生活のしかた、大きさなどが大きく異なります。身近な生き物に改めて目を向けることも必要です。また(4)、(5)、(7)では、教科書の基本知識を問う問題でしたが、漢字の誤りが目立ちました。文字を含めて正しい知識の定着を図りましょう。
2	磁石の性質と電 流のはたらき	(1)では磁石の基本的な性質を問いました。また(2)、(3)、(7)では、文章や図・表を正しく読み取ることで解答できる問題です。これらは正答率が高かったです。一方、(6)、(8)、(9)は他の問題や実験結果を活用することで、解答を導く力を問いましたが、正答率が低かったです。日々の問題演習においても、思考力・活用力を鍛えていきましょう。
3	太陽の動きと月 の満ち欠け	(1)から(7)までは、太陽の動きについて問いましたが、正答率も高く、よく理解できているようでした。一方、(8)以降は、月の満ち欠けに関して問いましたが、地球・太陽・月の位置から月の形や月の出の時刻に関する理解が十分ではなかったようでした。
4	水溶液の性質	実験結果から7種類の水溶液を判断する問題を出題しました。このうち2つの物質名を問いましたが、完答できていた受験生は3割程度でした。実験の手順や実験上での注意点も多く問いましたが、この点はよく理解できていました。反応による色の変化や物質の性質に関する知識は十分あるようですが、実験結果から考察する力をつけてほしいと感じました。

■ 問題分析

1

グループ A	グループ B	グループ C
① モンシロチョウ	⑧ セイヨウタンポポ	⑮ ミカヅキモ
② スズメバチ	⑨ ハルジオン	⑯ ゾウリムシ
③ シマリス	⑩ ウルシ	⑰ ボルボックス
④ アマガエル	⑪ カラスノエンドウ	⑱ ミジンコ
⑤ ヒメダカ	⑫ キャベツ	⑲ アオミドロ
⑥ シマヘビ	⑬ イネ	⑳ イカダモ
⑦ アメリカザリガニ	⑭ セイヨウイチゴ	

(1) 自然で生き物を観察するときに、その危険性から近づかないように気をつける必要のある生物はどれですか。グループ B の⑧～⑭のうちから 1 つ選び、番号で答えなさい。

(3) A～C のそれぞれのグループに属する生き物の共通する特ちょうとして正しいものを、ア～オからそれぞれ 2 つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を何度使ってもかまいません。

- ア 主に陸上で生活している
- イ 主に水中で生活している
- ウ 肉眼でからだのつくりを観察することができる
- エ 肉眼でからだのつくりを観察することができない
- オ 他の生き物を食べて生活している

小学校の教科書に出てくる様々な生き物をその特徴からグループ分けして考える問題です。それぞれの特徴を正しく理解していれば、解答を得ることができます。

(1) 植物は、自身のからだに傷ついたときに、その部分を修復するために樹液を出します。ウルシの出す樹液の成分は、ヒトの皮膚のかぶれの原因になることが知られています。またこの成分は蒸発しやすいため、直接触れなくてもウルシの周りを通っただけでかぶれてしまうことがあります。ウルシの危険性は、各社の教科書にも記載されています。

(3) 動物(グループ A)と植物(グループ B)の特徴の 1 つは、からだが多数の細胞できているため、肉眼で観察できることです。一方、グループ C の生物は、1 つの細胞でからだできている(ミジンコを除く)ため、その構造を肉眼で観察することはできません。また、生活する場所については、植物は陸上で生活するものとして定義されています。

■ 対策への助言

学びの基本は教科書にあります。基本的な現象・用語・実験手順などは教科書を通してしっかりと理解してください。また正しい理解をしておくことで、問題集で解いたことがないような問題でも対応できるようになります。問題を解くテクニックに頼らずに、普段から身のまわりの自然現象に興味を抱き、「なぜそのようなのか」を意識して学習してください。

■2025(令和7)年度 中学校入試

A 日程午前

社 会

2025 年度 中学入試A 日程 分析・社会科

■全体講評

社会科として6回目の中学入試となりました。問題講評にあたり、以下の3点に留意しました。

- ① 受験者全体の平均点を60 点前後となるようにする。
(難問はないが、読解力を問う問題を多く出題する)
- ② まんべんなく全範囲から出題する。
- ③ 時事的な内容からも出題する。

■出題趣旨・講評

問題 番号	項目	設問
1	(地理) 「ジオパーク」を題材とした、 地理的知識、思考を問う総 合問題	日本にある「ジオパーク」の所在地を基に、地形・農業・水産 業・工業などに関する基本的な内容について問う問題と、図 や表の読み取りなど、時事問題や新傾向の問題も多く出題 しました。
2	(歴史) 平安時代・鎌倉時代・幕末 の国際関係についての問 題	重要人物名や語句について漢字で答える問題を出題。平 安時代・鎌倉時代・幕末の政治史だけではなく、文化や社会 背景について出題しました。幕末の歴史地図についての問 題やグラフの問題も出題しました。
3	(公民) 日本国憲法と国際連合・ 隣国の文化についての問 題	日本国憲法の成り立ちや原則についての用語について出題 しました。天皇の仕事や国民の義務についての問題や国際 連合の役割や隣国の文化について出題しました。

■問題解説

大問1

- (11) ジオパークは自然が豊かな所が認定されるため、工業地域からは離れた所にあります。以下の表の A
～E は、京浜工業地帯(東京都, 神奈川県), 中京工業地帯(愛知県, 三重県), 阪神工業地帯(大
阪府, 兵庫県), 北九州工業地域(福岡県), 瀬戸内工業地域(岡山県, 広島県, 山口県, 香川県,
愛媛県)の 2020 年の製造品出荷額(百億円)の合計と内訳です。表から読み取れるものとして、適当
でないものをア～オから 1 つ選び、記号で答えなさい。

工業地域名	製造品出荷額 合計	金属	機械	化学	食品	せんい 繊維	その他
A	5448	524	3717	668	290	38	211
B	3223	610	1282	714	377	39	201
C	2788	507	965	815	243	60	168
D	2292	198	1086	522	280	11	194
E	895	146	396	121	153	5	74

『データブックオブ・ザ・ワールド 2024』より作成

- ア Aは、製造品出荷額合計が表中で最も高く、機械工業の割合が大きいことから中京工業地帯である。
- イ 製造品出荷額合計に占める金属工業の割合を比べると、BとCではBの方が大きい。
- ウ 製造品出荷額合計に占める機械工業の割合を比べると、BとDではBの方が大きい。
- エ 製造品出荷額合計に占める化学工業の割合を比べると、CとDではCの方が大きい。
- オ Eは、製造品出荷額合計が表中で最も低く、食品工業の割合が大きいことから北九州工業地域である。

■解説

表の読み取り、計算、選択肢の文章理解が必要になる総合問題です。答えである「ウ」の選択肢を計算します。

表から、製造品出荷額合計は、Bが3223(百億円)、Dが2292(百億円)、機械工業の金額は、Bが1282(百億円)、Dが1086(百億円)と分かります。それぞれ計算すると、Bは $1282 \div 3223 = 0.397\cdots$ (約39.7%)、Dは $1086 \div 2292 = 0.473\cdots$ (約47.3%)となります。

割合を比べると、Dの方がBより大きいため、「ウ」が適当ではないので、答えとなります。

◇対策への助言

社会科という科目は、用語を漢字で書けるようになることは大切です。しかし教科書にのっている内容だけを勉強するだけでは不十分です。身近な話題をもとに、一つの物事を様々な角度から捉えていく必要があります。そのためには、新聞やニュースから、関心を持った内容について、深く考えてみてください。新聞やTVのそばに、辞書や地図・地球儀を置き、気になったことはすぐに調べる習慣をつけていくと良いでしょう。

また、今年度も地理1題、歴史1題、公民1題と問題数を昨年通りの問題構成にしました。ただ単に知識を答えるのではなく、よく読み、持っている知識を使い考えて解いてほしい問題を増やしています。また、データや文章の読み取りも大切です。暗記するだけではなく、情報を処理する応用力など総合的な力を付けて欲しいと考えています。

■2025(令和7)年度 中学校入試

A 日程午後

算 数

■全体講評

出題形式は例年と同様である。小学校で学習してきた内容について、基礎力を確認する問題から柔軟な思考力・発想力を要求する問題まで幅広く出題した。特に思考力・発想力を要求する問題では、頻出の解法と異なる考え方をするものや、別分野の解法を組み合わせる問題など、普段の演習で理論的に理解して取り組んでいるかを重視して出題した。

計算問題や演習を重ねてきた頻出の解法を用いる問題については正答率が高く、基本の定着への努力が伺えた。上述のような思考力・発想力を問う問題では全体の正答率は高くはなかったが、正解者もおり差がついた結果となった。

普段での演習において、論理的に思考し、どの計算で何がわかるのかを整理して問題に取り組んでほしい。これは進学後においても求められる力である。

■出題主旨

1. 基本から標準レベルの計算力を問う問題で、計算力が定着しているかを試す問題。
2. 標準レベルを主とした文章題。(5)の後半部分では、長針と短針のすすむ速さが正常な時計と異なるという、思考力を問う問題も出題した。
3. やや長文から情報を抜き出して、特に割合や差を考える問題。売買算・つるかめ算のみでなく比や差を理解して解くことに重きをおいた。
4. 長文(トライアスロンのタイムという説明の理解, 3 人の登場人物の証言)を理解し、速さに関して解く問題。情報を整理し、旅人算などに応用する力を求めた。
5. 影に関する問題。(1)は単純な棒でできる影の長さを問うたが、(2)は板、(3)はブロックでできる影の面積を問うた。自ら立体の図を書き、空間を正しく想像する力を求めた。

■対策への助言

日常の演習で、「どの条件を使って、どのような計算をすれば、何が求められるのか」を整理してください。解答の正確さや手早さのためには反復練習を行い、スピードを目標とする必要もあります。それももちろん大切であると思いますが、多くの演習を積むなかで、ふと立ち止まって「これはどの条件を使って何を求めている計算であるのか」を考えることも大切です。これは今後数学を学習していくなかで必要な論理的思考力につながります。ただ解法を暗記して取り組むのではなく、それぞれの解法の根本や共通点などを考え、解法を整理する力をつけましょう。

■問題分析

- 2.(5) 正確にすすむ時計 A と少しはやくすすむ時計 B があります。2 時ちょうどから考えて、時計 A の長針と短針のつくる角度がはじめて 160 度になるときは 2 時 ケ 分でした。
- また、時計 B が 2 時ちょうどをさしたとき、時計 A も 2 時ちょうどをさしました。2 時ちょうどから考えて、時計 B の長針と短針がはじめて重なったとき、時計 A は 2 時 10 分をさしました。時計 B が 3 時ちょうどをさしたとき、時計 A は 2 時 コ 分をさしました。

考え方と解き方

ケについて

考え方：時計 A についての問題です。日頃練習している時計算を利用しましょう。

解き方：

長針は 1 分間で $360 \div 60 = 6$ 度すすみ、短針は 1 分間で $30 \div 60 = 0.5$ 度すすむので、

長針と短針が重なる前は、長針は短針に 1 分間で 5.5 度追いつき、

長針と短針が重なった後は、長針は短針より 1 分間で 5.5 度先にすすむ。

2 時ちょうどときは長針と短針のつくる角度は 60 度。

長針が短針に 60 度追いつき、160 度先にすすむのにかかる時間は

$$(60+160) \div 5.5 = 40 \text{ 分}$$

したがって、長針と短針のつくる角度がはじめて 160 度になるときは 2 時 40 分

コについて

考え方：日頃練習している時計算の理屈(なぜ 5.5 で割るのかなど)を考えましょう。

解き方：

長針が短針に 60 度追いつくのにかかる時間が 10 分であるから、

長針は短針に 1 分間で $60 \div 10 = 6$ 度追いつく。

長針と短針が重なる前に長針が短針に追いつく速さと、重なった後に長針が短針より先にすすむ速さは同じ。

重なってから 3 時ちょうどをさすまでは、長針が短針より 270 度先にすすむ時間であるので、

その時間は $270 \div 6 = 45$ 分

したがって、時計 B が 2 時ちょうどから 3 時ちょうどまですすむのにかかる時間は、

$$10 + 45 = 55 \text{ 分}$$

であるので、時計 B が 3 時ちょうどをさしたのは、時計 A が 2 時 55 分をさしたときである。

■2025(令和7)年度 中学校入試

A 日程午後

国 語

■全体講評

説明的文章、文学的文章の大問 2 題の出題である。

説明的文章、文学的文章ともに本校の入試問題としては標準的な長さであった。説明的文章は、具体例や他の書物からの引用文を用いた分かりやすい文章である。文学的文章も小学生とその担任の先生を登場人物とし、受験生にとって身近で読みやすい内容の文章となっている。

それぞれの大きな問題の中に漢字・語句・文法問題および内容を問う設問が立てられている。出題形式としては記号選択問題、書きぬき問題、記述問題といったものを基本とした。また、文学的文章には会話形式で本文の読解を深める問いを出題している。2 つの大きな問題から合わせて 5 題の記述を出題しており、短いもので 15 字以内、長いもので 50 字以内の長文記述を出題している。

全体としてどの設問も、文章を丁寧かつ正確に読み取ることができれば、答えにたどり着けるようになっている。

■出題主旨

大問 1 【説明的文章】高槻成紀『動物を守りたい君へ』

文明の発達によって引き起こされた環境問題を取りあげた文章である。様々な地域での具体例などをあげながら文章が進められている。筆者の考えを設問とともに順に読み取るとすることで、テーマに対する理解が深められるようになっている。

大問 2 【文学的文章】

小学 5 年生の「元也」が教室を脱走してしまうことがきっかけで、「元也」の抱えているしんどさを担任の「良太」先生が知ることになる。「良太」先生とクラスメートたちによって「良太」の心が次第に和らいでいく、その過程が描かれている。登場人物のやりとりや行動などから心情を正しく理解し、「元也」の閉じられていた気持ちが次第に開き、変化していく心情の変化を読み取ってほしい。

■対策への助言

説明的文章では、具体例などが文章全体でどういう役割を果たしているのかを考えながら読み進める。接続詞などにも注目しながら段落ごとの関連性も考え、全体の流れを通して筆者の主張を理解したい。文学的文章では、登場人物のおかれている状況や行動などに注目し、そのときの心情を追っていく。そのためには語彙力なども身につけていきたい。

また記述問題では、問われている部分が本文のどこの部分と関わっているのかを正しく読みとり、解答に必要なポイントを考える。字数制限内に収まるよう、要約する力も必要となる。

漢字や語彙力などの知識は普段から蓄えておく必要があるだろう。

■ 問題分析

二 文学的文章（本文は抜粋）

先頭にいるのは、元也のとなりの席に座^{すわ}っている木島志^し乃^のだった。元也の真^ま似^ねをした奥村明^{おくむら}広^{はろ}も沼^ぬ田^{また}悠^{ゆう}太^たもいる。学級委員の日高真^{しん}一^い郎^{ちろう}は集^し団^のの真^まん^ね中^{ちゆう}だった。5年3組の全員が弾^はむ^ずような足取りで、階^き段^だをあがってくるのだ。狭^せい^ま塔^た屋^やのなかは、すぐに子どもたちでいっぱいになった。最後^{さいご}に顔を見せた非常勤^{ひょうきん}の教師、吉井^{きちい}が顔^{かお}をほ^ほこ^ころ^ろば^ばせ^せて^てい^いっ^った^た。

「3組はいいクラスですね、中道^{なかつち}先生^{せんせい}。感^{かん}心^{しん}しま^まし^した^た。わ^わた^たし^しが^がい^いい^いだ^だし^した^たん^んじ^じゃ^ゃな^なく^くて、子^こど^ども^もた^たち^ちが^が自^じ分^{ぶん}で、本^{ほん}多^たく^くん^んを^を迎^{むか}え^えに^にい^いく^くっ^って^てい^いっ^った^たん^んで^です。今^け日^{にち}で^でひ^ひと^とり^りき^きの^の授^{じゆ}業^{ぎやう}も^も終^はわ^わる^る。来^き週^{しゅう}から^{から}は、ま^また^たい^いっ^っし^しょ^ょだ^だか^から^らっ^って^て」

ポニーテールを揺^ゆら^らし^して^て木^き島^{しま}志^し乃^のが^がい^いっ^った^た。

「本^{ほん}多^たく^くん^ん、教^{きやう}室^{しつ}に^に帰^{かえ}ろ^う」

⑨ 元也^{げんお}は^は頬^ほを^を染^そめ^めて、思^{おも}い^いき^きり^りう^うな^なず^ずい^いた^た。感^{かん}動^{どう}し^して^てい^いる^る子^こど^ども^もの^の表^{ひょう}情^{じやう}を^を見^みる^るの^のは、と^とて^ても^もい^いい^いも^もの^のだ^だ。良^{りやう}太^たは^は幸^{しあ}福^{ふく}な^な気^きも^もち^ちで^で子^こど^ども^もた^たち^ちの^の輪^{りん}に^には^はい^いっ^った^た。

問十一 ——線部⑨「元也は頬を染めて、思いきりうなずいた」とありますが、このとき
の元也の気持ちを五十字以内で説明しなさい。（ 、 。 「 」は字数に数えます。）

《解答例・解説》

——線部の「元也」の様子から、どのような心情を表したものかを問う問題である。

——線部の前の本文に描かれている場面を読むと、クラスの児童全員が「元也」を迎えに
来てくれている。しかも、先生に指示されたのではなく自分たちで提案したとある。教室
にいと息ができなくなるという「元也」はクラスメート全員が迎えに来てくれたことを
知り、うれしかったと考えられる。その感動が「頬を染めて」という描写につながってい
る。さらに、その前の場面で「元也」は「良太」先生から「本多くんには、いつだって味
方がいる」という言葉をかけてくれている。目の前にクラスメートが現れたとき、自分
には味方、仲間がいるんだというその言葉を実感できたに違いない。それらの要素を盛り込
んで解答を作してほしい。

■2025(令和7)年度 中学校入試

B 日程

算 数

■全体講評

出題形式や難易度については、基本的には例年と同様である。小学校で学習してきた内容について、基礎力を確認する問題から柔軟な思考力・発想力を要求する問題まで幅広く出題した。また、思考力・発想力を要求する問題として、先生と生徒との会話を使って反射を使った問題、グラフを使った速さの問題、長方形上を点が動く問題などを出題した。

計算問題は正答率が高かったが、小問集合については少し正答率が低かった。つるかめ算など基本をしっかりとおさえるとできる問題なので、反復練習をすることが大切である。また、思考力・発想力を要求する問題については、問題の意図を読み取る能力や計算力をもっと付けてほしいと思った。もっとたくさん問題をこなすことが必要であると思った。

■出題主旨

1. 基本から標準レベルの計算力を問う問題で、計算力が定着しているかを試す問題。基本的な四則計算、分数・小数の混合計算、カッコを含む式の計算が正確にできるかどうかを問うた。
2. 基本から標準レベルの文章題。分数の問題、つるかめ算の問題、食塩水の濃度の問題、点数の分布から平均や正誤を求める問題、立体を水に沈める問題を出題した。立体を水に沈める問題はあまりできていなかった。
3. 山を上がる、下る問題。出会いの時間を2回与え、それを使って速さを求める問題。出会う時間、帰ってくる時間を求める問題。
4. 先生と生徒の会話を使って、反射を使って考える問題。例を見せることによって、どのように反射するかを考え、それが分からないとできない問題。
5. 長方形の上を2点が違う速さで動く問題。出会う時間、三角形の面積を求める問題。

■対策への助言

算数の学習では、日頃からの努力により、正確な計算力と柔軟な発想力をつけることが重要です。そのためには、数多くの問題を解くこと、さらに、焦ってマニュアル的に解答を求めるのではなく、なぜ、そのように考えるのか、じっくりと問題に向き合うことも大切です。そのような取り組み方により培われた発想力・思考力が他の問題の解法にもつながっていきます。

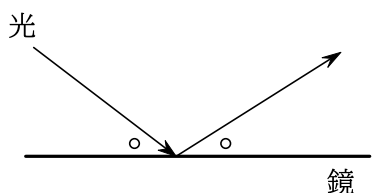
また、正確な計算力をつけるためには、当然のことですが、計算を間違えたときにすぐに直しをすることが大切です。意外にしんどいことですが、この習慣を身につけることで、正確な計算力が習得できます。

■問題分析

4. 先生 今日は反射について考えてみましょう。

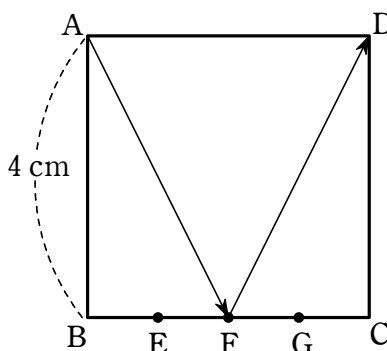
下の〔図1〕を見てください。光は鏡に対して図のように反射します。では、〔図2〕を見てください。図は1辺4 cmの正方形で、4つの辺は鏡になっているとします。また、3点E, F, Gは辺BCを4等分しているとします。点Aから点Fに向かって光を放つと、1回反射して点Dへ進みます。このようにA, B, C, Dのどれかの点に光が進むと、反射は終わるとします。

〔図1〕



(○のついた角の大きさは同じ)

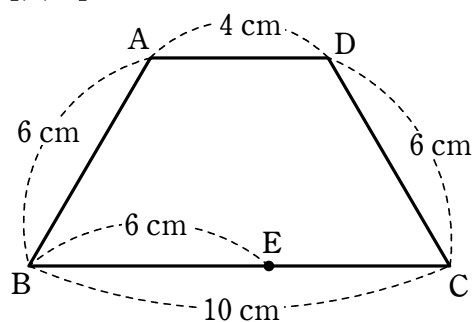
〔図2〕



(中略)

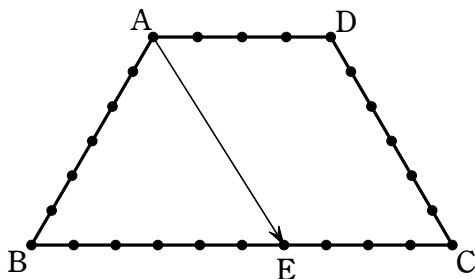
先生 では、図形を変えてみましょう。〔図3〕を見てください。

〔図3〕



先生 図はADとBCが平行な台形です。4つの辺は鏡になっているとします。点Aから点Eに向かって光を放つとどうなりますか。

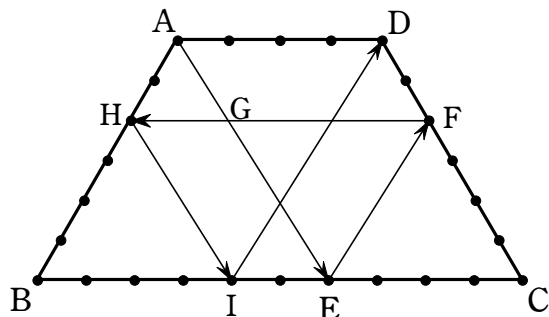
(3) 下線部①のとき、光の進む様子を解答用紙の図に書きなさい。ただし、隣り合う黒い点は1 cm ずつはなれています。



(4) 下線部 ① のとき，光の進んだ長さを求めなさい。

考え方と解き方

(3) 反射の意味を考えると，次のような図になります。



(4) 光の進んだ長さを求めるには，まず，三角形 ABE が正三角形であることに気づいてください。したがって， $AE=6\text{ cm}$ です。また，三角形 CEF も正三角形だから， $EF=4\text{ cm}$ です。 $FG=CE=4\text{ cm}$ ，三角形 AHG も正三角形で， $HG=2\text{ cm}$ ，三角形 BHI も正三角形で， $HI=4\text{ cm}$ ，三角形 CDI も正三角形で， $ID=6\text{ cm}$ です。

したがって，光の進んだ長さは， $6+4+4+2+4+6=26$

(答え) 26 cm

■2025(令和7)年度 中学校入試

B 日程

国 語

■全体講評

文学的文章と説明的文章の2題を出題した。文学的文章がやや長めではあったが、説明的文章と合わせるとほぼ例年通りの文章量である。いずれの文章も、受験生にとって読みやすい内容だったのではないだろうか。

ただし、記述問題を多く出題したため、解答をまとめるのにある程度の時間を要したかもしれない。単純な書き抜きは少なく、10字～20字程度でまとめる問題が8問。さらに、40字と60字以内でそれぞれ自分で考え、答える問題を出題した。空欄のままの答案用紙は少なかったが、本文全体の内容をふまえたり、登場人物の心情を適切に説明したりするのはやはり難易度が高かったようである。傍線部の直前、直後だけに着目し、単純な書き抜きのような解答も多く見られた。

漢字は5, 6年生で学習するものだけでなく、小学校6年間で学習する漢字を本文中から13問出題した。全体的によくできていた印象である。多くの受験生はしっかりと見やすい文字を書いていたが、中には画数や部首があまり意識できていない乱雑な漢字も見られた。

■問題趣旨

大問1 説明的文章 池谷裕二 『脳には妙なクセがある』より出題

脳研究の第一人者による一冊。多くの章から成り、いずれもわかりやすく興味深い内容だが、今回は「笑顔」に関する章から出題した。私たちは楽しいから笑顔になると思っている。しかし、実際は笑顔に似た表情を浮かべるだけで、楽しい気持ちになるという逆因果が私たちの脳にはあるのだ。笑顔の人を見ると心地よい気分になるが、笑顔を作る人にとってもよい心理効果があり、笑顔には想像できないほどの可能性があることがわかる。本文中に紹介された2つの実験やボトックス注射の例を丁寧に読み取りながら、主旨を押さえていきたい。

大問2 文学的文章 如月かずさ 『給食アンサンブル』より出題

「わたし」は家庭の経済的な事情により、私立小から公立中学校に進学したのだが、前の学校に未練を抱えている。その気持ちをこっそりと七夕飾りに書いたことで友人達に知られ、仲違いをしてしまう。孤独を感じながらもなかなか素直になれない「わたし」の心情や、そんな「わたし」の心をときほぐそうとする友人達の思いやり、登場人物それぞれで描き分けられたキャラクター像などをしっかりと読み取ってほしい。

■対策への助言

日頃から読書に親しみ、ある程度長さのある文章を、最後まで集中して読み通せるようにしておきたい。読解の基本となる漢字や語彙の力を、地道に身につけていくことも大切である。今回に関しては漢字の問題より、ことわざや慣用句の正答率がやや低めであった。知らない言葉が出てきたら放っておかず辞書で意味を確認したり、例文の中で理解したりする姿勢を持ち続けてほしい。近年はデジタル機器を用いた学習が増えていると思われるが、漢字学習においては適度な筆圧を加えながら筆記具を用いて、ノートに書くという練習も必要かもしれない。

■2025(令和7)年度 中学校入試

B 日程

理 科

■全体講評

例年通り各分野のバランスを考えて、生物、物理、化学、地学の4分野から均等配点で出題しました。難易度や問題数も各分野で偏ることがないようにしました。正当率はおおむね65%～70%の範囲に収まっていますが、今年は生物が55%程度で、最も難しかったようです。問題は基本的な知識だけでなく、実験結果を分析し解釈することや、新しい事象について与えられた文章や情報を正しく読み取り理解することなどが求められました。

いずれの分野の問題においても、受験生のみなさんが問題集などで学習したことのありそうな問題の正答率は非常に高く、しっかりと練習を積んできていることが感じられました。一方、正答率の最も低かった問題は、知識を自分で考えながら学び実感が伴った理解に至っていないと回答できないものでした。理科の学習だけでなく、環境問題などの社会問題も科学的視点をもって考える姿勢が重要です。

■出題趣旨・講評

問題 番号	項 目	設 問
1	ものの燃えやすさ	物質の燃えやすさと状態を組み合わせる問題を出題した。燃える液体や気体を考えることは少ないが全体的によくできていた。実験器具（気体検知管、実験用ガスコンロ）の使い方の正答率が少し低かった。
2	気象の観測	気象観測に関する知識、気象衛星画像からの天気の予想、与えられたデータからの考察問題を出題。「大雨特別警報」など用語を正確な解答が少なかった。画像からの予想される天気、データの読み取りはよくできていた。
3	植物工場における農作物の栽培	"会話文中の植物工場に関する知識からそのメリットを考察したり、
4	ものの重さと浮力	液体の密度と浮力に関する記述を読み取って、ものの重さとの関係について考える問題を出題した。量的な計算は算数の知識を活用してよくできていたが、グラフ化する問題や定性的に考える問題の正答率が低かった。

■問題分析

この液体の中に、同じ体積のおもちゃC～Fを図5のような位置までしずめました。次に、自由に動けるようにしたところ、しばらくすると図6のようになって止まりました。

(8) それぞれのおもちゃの重さを比べるとどのようになりますか。正しいものを、次のア～オから1つ選び、記号で答えなさい。

ア $C = E = D = F$

イ $C < E < D < F$

ウ $C > E = D > F$

エ $C < E = D < F$

オ $C > E > D > F$

図5

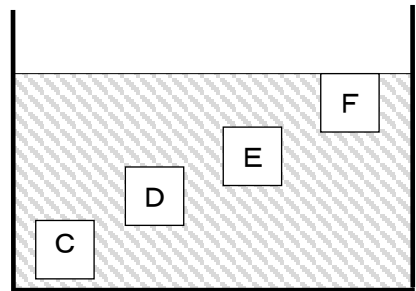
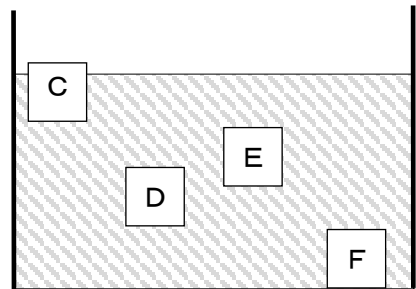


図6



【解説】リード文中に示されていることから

「同じ体積のおもちゃ」なので、

図5の時は、どのおもちゃも浮力は同じだとわかります。

その後、Cは上に、Fは下に移動したということは、Cでは重さが浮力より小さく、Fでは重さが浮力より大きいと考えられます。

DとEは動かなかったなので、重さと浮力が釣りあっているはずですが、DはEより下で止まっていますが、DとEは同じ重さなのです。

■対策への助言

基本的な事象・用語・実験手順などを単純に覚えるだけでなく、データや誘導文を読解することや、思考力を問うような選択問題への対策をする必要があると思います。理科の時間だけでなく、算数の時間に学んだことも、理科に応用できるようにしましょう。また、社会課題を考えると、科学的な視点を持って、なぜそうなるのかを考察しながら勉強することが望まれます。

■2025(令和7)年度 中学校入試

B 日程

英 語

講評

■全体

筆記・面接ともに昨年度に準じた形式であり、筆記試験は 30 分・60 点、面接試験は 40 点で実施した。

筆記試験の得点率は 75%、面接の得点率は 83%だった。レベルは英検 3 級程度である。

筆記

- | | | |
|-----|-------|---------------------------------------|
| 1 | 長文読解 | 内容理解および内容から類推する英作文 |
| 2～4 | 表現・文法 | 適語の選択、同意文作成など |
| 5 | 英作文 | 25～35 語で書くテーマ英作文「留学先へ持っていくお土産には何を選ぶか」 |

面接

- | | | |
|---|--------|---------------------------------|
| 1 | 挨拶 | 基本的な挨拶と応答 |
| 2 | 音読(1分) | 「睡眠」に関する英文の音読：発音・イントネーション・リズムなど |
| 3 | 内容理解 | 2 英文の内容に関する質問・応答 |
| 4 | 関連質問 | テーマに関連する受験者自身についての質問・応答① |
| 5 | 追加質問 | テーマに関連する受験者自身についての質問・応答② |

■対策の助言

* 長文読解

英検 3 級程度の問題集や少し頑張れば読める本などを利用して問題演習をしておきましょう。

* 表現・文法・

英検 3 級程度の問題集などを利用して練習問題をしておきましょう。

* 英作文

基本的な英語表現を覚え、使えるようにしたり、正しい綴りで書けるようにしておきましょう。

* 面接

英検 3 級の 2 次面接に準じた形式です。文章や質問の理解とそれに対する応答を求める問題が中心でした。基本的な例文を理解して音読・暗唱するだけでなく、対話文などを使って自然な会話の流れの中で質疑応答をする練習をしましょう。また身近なテーマや自分自身のことに関して英語で表現する練習もしましょう。